

(令和3年10月23日)

第37回 赤松小三郎研究会のご報告

日時： 令和3.10.9(土) 14:00～15:30

場所： 日比谷図書館文化館 4階 セミナールームA

出席者： 14名(12月の講演会講師 安藤優一郎氏も参加)

～コロナ禍の影響で、昨年2月開催以来1年9か月ぶりの例会再開～

< 配布資料 >

資料—1 八木剛介の筆録「田原記聞」を読んで

— 赤松小三郎の号令詞について— (その2)

< 内容 >

八木剛介の筆録「田原記聞」を読んで

— 赤松小三郎の号令詞について— (その2)

発表者：石川浩氏

1 はじめに～今回の発表の経緯

前回(2020年2月、第36回)の研究会で、関良基さんが今後の研究課題として「小三郎の号令詞」について、八木剛助の「田原記聞」の調査が必要であることを挙げたのを受けての調査、発表である。

2 岩崎鐵志さんの「八木剛助筆録『田原記聞』」を詳細に分析調査したところ、「号令詞」に関すること以外にもいろいろ興味深い事実がわかった。

(1) 「号令詞」に関して

- ・オランダ語を訳した「田原記聞」にある号令詞と、英語を訳した小三郎の「英国歩兵練法」の号令詞は、類似したものは確認できない。つまり、オランダ語を訳したものは、読み方をそのまま日本語にしたものなどが多く、小三郎のそれとは異なった。
- ・一方、「田原記聞」と同時期にオランダ語を日本語訳した「徳広幸蔵」の資料には、小三郎が訳した号令詞と類似したものがある。
- ・いずれにせよ、小三郎や八木剛助・徳広幸蔵の訳した日本語の号令詞は、近代学校教育での『兵制体操』に導入され、現在に至ったと言っても過言ではない。

(2) その他、「田原記聞」からわかったこと

- ・上田藩主松平忠固と三河田原藩主三宅康直は兄弟で、その縁で八木剛助は三河田原藩士である村上定平から軍事に関する技術(高島流砲術)を学ぶことができた。

- ・そもそも「田原記聞」とは、八木剛助が記述した403箇条からなる「日条」（日記）で、砲術や馬術に関する内容以外に1842年～1848年頃の世界情勢など多岐にわたる内容が記述されている。
- ・よって、「田原記聞」は、八木剛助が村上定平の「銃陣初学鈔」の内容のみを記述した史料ではないことが明らかになった。
- ・八木は「田原記聞」で、「西洋流を学ぶ者は、西洋の原語で銃術を学ぶこと、そのようにすれば、後々輸入される原書を翻訳するときに役に立つ」（194条の条文）と述べており、小三郎にとってこの条文は「英国歩兵練法」を翻訳するトリガーになったと思う。

次回（予定）は、「田原記聞」の記述内容の分析結果を発表します。

以上

※その他報告

1. 上田市立博物館の赤松小三郎展示の状況 報告者：荻原貴
2021年10月2日、赤松小三郎常設展示にて、以下3点の展示を確認。
 - ① ミニエー銃
 - ② 幕府海軍弾薬箱
 - ③ 八分儀
 いずれも、「赤松小三郎 所用」との説明あり。

※事務局より

1. 12月12日（日）は、講演会「赤松小三郎と勝海舟」がありますので、12月の研究会例会はありません。
 - ・講演会の申込みは、現在64名。
2. 次回研究会について
 - ・2022年2月12日（土）午後2時～
 - ・場所、内容は未定

（記録：荻原貴）